

2 0 2 0 年 度

事 業 報 告 書

自 2 0 2 0 年 4 月 1 日

至 2 0 2 1 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目 次

I. 海洋センター所在市町村の概要	2
II. 法人の概況	3
1. 設立年月日	3
2. 定款に定める目的	3
3. 定款に定める事業内容	3
4. 所在地	3
5. 基本財産の額	3
6. 行政庁	3
7. 役員に関する事項	3
8. 職員に関する事項	3
III. 管理業務	4
1. 役員及び評議員	4
2. 専門委員	4
3. 会議	4
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	5
6. 事務局	6
IV. 事業の実施状況	
【公益目的事業】	
1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関する モデル事業	7
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備	8
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	14
4. 誰もが海に親しめる事業の推進	20
5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用	22
6. 全国会議の開催	23
7. B&Gプランの推進に関わる調査研究等の活動	25
8. 広報活動	26
9. 災害等支援事業	27
10. 寄付金等事業	27
【収益事業】	
1. 土地賃貸事業	28
2020年度事業報告における附属明細書	33

I. 海洋センター所在市町村の概要

(海洋センター及び所在市町村の数)

2020年度内に、3カ所の海洋センターが廃止となり、海洋センター数は当初の480カ所から466カ所となった。2021年3月末現在の海洋センター所在市町村数は、214市・159町・13村で386自治体である。

初期の海洋センター建設から45年以上経過し、これまで老朽化や自然災害などにより14カ所の海洋センターが廃止されているが、これは全体の約3%に止まる。

(海洋センターの今後の見込みと対応)

適正な管理を行っていても「海洋センター」の経年劣化は避けられない問題であり、今後も耐用年数の超過や自然災害などで、廃止となる「海洋センター」が生じることが見込まれる。

しかし、積極的に財団と連携する「海洋センター」とは協力体制を継続・強化していく方針である。そのため今後とも「修繕助成金」などにより「施設の大規模改修」或いは「建て替え」などに積極的な支援を行い「海洋センターの長寿命化」を推進していく。

また、首長・教育長・B&G指導者など、様々な立場の関係者との情報交換などを行い、理解促進に努めるとともに、社会的課題に対応する諸事業を積極的に展開し、「海洋センター」の更なる地位の向上を図っている。

(青少年健全育成推進5ヵ年計画の更なる拡大)

「海洋センターの新たな活用と活性化」「子どもたちの生きる力の育成」などをビジョンに2015年度から実行した「青少年健全育成推進5ヵ年計画」は、概ね所期の目的を達成した。

しかし、その間も、多発する自然災害、子供の貧困の深刻化、自然体験機会の減少、海洋ごみの問題など、地方や子供たちの状況は刻々と変化している。

これら諸問題に対応するため、2020年度では、これまでの「5ヵ年計画」のビジョンを更に拡大し、従来事業の充実を図るとともに、各地域で自然災害時に迅速に対応する「防災倉庫の設置」、より広域的に子供の貧困問題に対応する「子ども第三の居場所」の全国展開、「ふるさとの偉人」を題材に郷土愛を育む漫画教材の作成などに着手した。

数々の制限のある「コロナ禍」が継続される状況であるが、B&G財団は進化を止めず、全国の海洋センター・海洋クラブなどと協力し、公益財団法人としての社会的責務を果していく。

II. 法人の概況

1. 設立年月日 1973年（昭和48年）3月28日

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い、2012年3月21日付で内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定を受け、2012年4月1日付で公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、わが国の青い海と緑の大地を実践の場とし、主として海洋性レクリエーション事業を軸とした青少年の健全育成、身体活動を通じた幼児から高齢者までの心身の健康づくり、水の安全教育と海事知識並びに環境保全の普及・啓発等、公益の増進を図る事業の振興に寄与し、海洋国日本の発展に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成に関する事業
- (2) 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
- (3) 水の安全教育と海事知識の普及・啓発に関する事業
- (4) 国際交流と環境保全を推進する事業
- (5) 指導者養成に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地 東京都港区虎ノ門3-4-10（虎ノ門35森ビル9F）

5. 基本財産の額（円）

取得価額	時価評価額	差異
6,560,000,000	7,528,425,500	968,425,500

※時価評価額については、2021年3月31日現在の有価証券の評価益を含んだ額である。

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の6. 事務局を参照

Ⅲ. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

（1）役員

2021年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」（29頁）のとおり、理事8名（会長1名、理事長1名、常務理事1名、理事5名）、監事2名である。

（2）評議員

2020年6月17日開催の評議員選任委員会において、評議員6名（岸 ユキ 氏・工藤 祐直 氏・小高 幹雄 氏・小峯 力 氏・谷川 真理 氏・波多野 茂丸 氏）が選任され、6月26日付で就任（再任）した。

2021年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」（30頁）のとおりである。

2. 専門委員（海洋センター施設整備委員）

2021年3月31日現在における専門委員は、別表3「専門委員名簿」（31頁）のとおり6名である。

3. 会議

（1）理事会

①第30回理事会（書面決議）

ア. 決議があったものとみなされた日

2020年6月8日（月）

イ. 決議事項：

第1号議案 2019年度事業報告及び附属明細書の承認に関する件

第2号議案 2019年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認に関する件

第3号議案 決議の省略の方法による第19回評議員会招集に関する件

②第31回理事会

ア. 時 期：2020年10月21日（水）

イ. 場 所：B&G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項他：

第1号議案 2021年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第2号議案 職員就業規則の一部改正に関する件

第3号議案 海洋センターの廃止に関する件

報告事項 職務執行状況報告

③第 32 回理事会

ア. 時 期：2021 年 3 月 4 日（木）

イ. 場 所：B&G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項他：

第 1 号議案 2021 年度事業計画書及び収支予算書の承認に関する件

第 2 号議案 海洋センターの廃止に関する件

報告事項 職務執行状況報告

(2) 評議員会

① 第 19 回評議員会（書面決議）

ア. 決議があったものとみなされた日及び報告があったものとみなされた日

2020 年 6 月 26 日（金）

イ. 決議事項他：

第 1 号議案 2019 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び
財産目録の承認に関する件

報告事項 2019 年度事業報告の件

(3) 専門委員会（海洋センター施設整備委員会）

①第 23 回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：2020 年 10 月 7 日（水）

イ. 場 所：B&G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2021 年度「地域海洋センター修繕助成」に関する件

第 2 号議案 北杜市小淵沢 B&G 海洋センターの廃止に関する件

4. 規程の制定等

(1) 一部改正した規程

- ・職員就業規則

5. 届出・登記事項

(1) 内閣府への届出

- ・2019 年度「事業報告等」の提出
- ・2021 年度「事業計画書等」の提出

(2) 登記事項

- ・評議員に係る登記

6. 事務局

2021年3月31日現在における事務局の機構は、別表4(32頁)のとおり3部6課であり、職員27名、契約職員7名である。

IV. 事業の実施状況

【公益目的事業】

1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業

※日本財団助成事業

海洋センター施設を多機能化することにより、従来の「スポーツ振興の場」に止まらず、地域住民が気軽に集える交流の場としてシフトすることにより、地域住民のコミュニティ拠点とすることを目的に実施した。

2020年度は大分県竹田市での地域資源（温泉）と連携した健康づくり、観光振興の取り組みに加え、新たに佐賀県みやき町をモデル自治体として選定し、海洋センターを活用した予防医療拠点化に向けて、水中運動プログラム策定を行った。

(1) 予防医療拠点との連携による海洋センターの先進的活用

既存の海洋センター温水プールと新たに建設する統合医療拠点を一体の施設として改修し、地域の予防医療の拠点としていくため、医療機関と海洋センターの連携体制を構築するとともに、連携する医療機関の監修を受け、プールで活用できる水中運動プログラムを策定した。

時期：通年

場所：佐賀県みやき町

内容：

①連携体制の構築

みやき町・社会医療法人天神会・B&G財団の三者で協定を締結。海洋センターと統合医療拠点において予防医療を推進するため、教育委員会をはじめ、福祉部署や企画部署との連携体制を構築した。

②プログラム策定

社会医療法人天神会の監修のもと、プールで実施する予防医療プログラム「B&Gアクアトレーニング」を策定し、プログラム普及に向けて動画・冊子資料を作成した。

③備品配備

2021年度から予防医療プログラムを展開するために必要な備品を配備した。

配備器材：体組成計機・支持台、アクアヌードル等

支援費用：200万円

(2) 地域資源を利用した海洋センターの新たな活用

3カ年事業の最終年度として、構築したプログラムを地域住民等へ提供するとともに、本事業の成果を検証するため、海洋センター利用者を対象とした意識調査を実施。事業初年度に実施した住民意識調査の傾向と比較することで、本事業の成果をとりまとめ、地域資源を活用したモデル事例として全国の海洋センターに周知を行った。

時期：通年

場所：大分県竹田市

内容：温泉とトレーニングを組み合わせた「健康づくりプログラム」等の実施
海洋センター利用者対象の意識調査の実施および検証・考察
3カ年の取り組み成果とりまとめと事業報告パンフレット作成

2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備

※日本財団助成事業

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則A評価以上で施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化等）を図る修繕と、自然災害（台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕に対し助成金の交付を行った。

また、ポートルースの収益金が広く有効に活用されていることを、当該市町村をはじめ地域住民に周知するため、修繕助成決定書授与式を実施するとともに、修繕工事後に行われているリニューアルオープン式典へも出席し、自治体執行部はじめ、議会関係者、多くの地域住民に更なる利用を促した。

(1) 修繕助成金の交付

①通常修繕

通常修繕として助成を決定した34海洋センター35施設に対し、452,100,000円を助成し、バリアフリー化をはじめ、屋根・外壁の全面改修や設備更新など、施設の機能向上を図った。（一部2021年度に事業延長）

◆通常修繕交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額(円)
1	北海道	東川町	プール	遠赤外線ヒーター・水中ポンプ等改修、プールサイド床改修、上屋シート取替、照明LED化（水銀灯）等	20,400,000
2	北海道	石狩市	体育館	アリーナ照明LED化（水銀灯）、排煙窓改修、トイレ洋式化工事等	6,000,000
3	北海道	浦臼町	体育館	暖房設備改修、アリーナ等照明LED化（水銀灯）等	18,600,000

4	青森県	南部町名川	プール	プール上屋鉄骨塗装、プール 缶体塗装 照明 LED 化（水銀灯）、腰 洗槽埋戻し、ボイラー交換等	10,800,000
5	青森県	南部町名川	体育館	アリーナ等照明 LED 化（水 銀灯）、壁・天井塗装等	8,000,000
6	岩手県	八幡平市松尾	プール	上屋シート全面取替	7,400,000
7	宮城県	川崎町	体育館	暖房ボイラー改修、アリーナ 照明 LED 化（水銀灯）、観 覧モニター設置、ロッカール ーム床・天井改修工事、ロビ ーバリアフリー化改修等	17,500,000
8	秋田県	由利本荘市大 内	プール	上屋シート全面取替、プール サイド改修、腰洗槽埋戻し、 張り出し屋根改修等	11,700,000
9	茨城県	石岡市	体育館	アリーナ等照明 LED 化（水 銀灯）	13,000,000 予定
10	栃木県	下野市国分寺	プール	プール缶体防水改修、上屋鉄 骨改修	15,800,000
11	千葉県	御宿町	体育館	屋根防水改修、換気扇設置	4,400,000
12	千葉県	大多喜町	体育館	体育館屋根塗装改修、トイレ 改修	12,300,000
13	千葉県	成田市大栄	体育館	屋根防水改修	12,900,000
14	千葉県	鋸南町	体育館	外壁改修、屋根防水改修、ア リーナ照明 LED 化（水銀灯）	30,000,000
15	新潟県	新潟市新津	体育館	アリーナの特定天井改修、ア リーナ上部の屋根改修、外壁 改修工事、アリーナの照明 LED 化 等	30,000,000
16	富山県	南砺市福野	体育館	アリーナ照明 LED 化（水銀 灯）	3,800,000
17	福井県	大野市	プール	上屋シート全面取替、照明 LED 化（水銀灯）	7,100,000
18	福井県	若狭町三方	体育館	外壁・屋根全面改修、アリー ナ照明 LED 化（水銀灯）、 防球柵撤去、アリーナ床改 修、ミーティングルームエア コン改修等	30,000,000

19	山梨県	山梨市牧丘	プール	暖房設備改修、加温設備改修、温水ポンプ取替、照明 LED 化（水銀灯）、プールサイド改修、腰洗槽埋戻し等	17,200,000
20	長野県	白馬村	体育館	アリーナ床研磨、天井・内壁改修、アリーナ照明 LED 化（水銀灯）、ミーティングルーム設置工事、トイレ改修、多目的トイレ新設等	30,000,000
21	長野県	阿南町	プール	上屋シート一部取替、ろ過機ろ材交換、照明 LED 化（水銀灯）等	4,900,000
22	岐阜県	中津川市付知	プール	缶体塗装、プールサイド床改修等	4,900,000
23	静岡県	袋井市袋井	プール	空調機取替、電灯設備改修、照明 LED 化（水銀灯）	8,500,000
24	静岡県	御前崎市	体育館	アリーナ等照明 LED 化（水銀灯）	6,400,000
25	滋賀県	多賀町	プール	上屋鉄骨塗装、小プール缶体塗装	9,100,000
26	兵庫県	宍粟市波賀	体育館	トイレ洋式化、身障者用更衣室新設	2,700,000
27	鳥取県	北栄町北条	体育館	アリーナ等照明 LED 化（水銀灯）	10,200,000
28	岡山県	井原市美星	プール	上屋シート取替、缶体・鉄骨塗装	10,000,000
29	岡山県	美作市作東	プール	上屋シート全面取替、鉄骨塗装等	7,400,000
30	徳島県	阿南市那賀川	体育館	耐震補強、アリーナ等照明 LED 化（水銀灯）、屋根改修等	30,000,000 予定
31	愛媛県	今治市朝倉	体育館	屋根防水改修、吊天井撤去、アリーナ照明 LED 化（水銀灯）等	20,500,000
32	福岡県	宗像市玄海	体育館	外壁等改修、アリーナ照明 LED 化（水銀灯）	10,000,000
33	福岡県	川崎町	体育館	アリーナ照明 LED 化（水銀灯）	9,400,000
34	熊本県	菊池市泗水	体育館	アリーナ照明 LED 化（水銀灯）	1,900,000

35	鹿児島県	与論町	艇庫	屋根・内外壁改修等	9,300,000
					452,100,000 予定

②特別施設整備

3 海洋センター3 施設に対し、82,000,000 円を助成し、複合型施設への改修などを支援した。

◆特別施設整備交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額（円）
1	佐賀県	みやき町北茂安	プール	複合施設併設のための出入口新設、更衣室新設、内外壁改修、缶体塗装、照明 LED 化（水銀灯）等	30,000,000
2	長崎県	時津町	艇庫	多目的スペース増築、艇庫外壁・屋根補修工事、2階事務室の天井・壁改修、トイレ・シャワー・更衣室の改修	22,000,000
3	千葉県	横芝光町光	プール	給水・給湯・循環ろ過器取替、照明 LED 化（水銀灯）・外壁塗装改修・屋根防水改修等	30,000,000
3 センター・3 施設					82,000,000

③災害復旧修繕

熊本地震で被災した熊本市城南海洋センター プール・体育館の修繕工事に対し助成決定し、工事に着手した。（2021 年度に事業延長）

◆災害復旧修繕交付一覧（当初）

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額（円）
1	熊本県	熊本市城南	プール	熊本地震被害によるプール・屋根再建	30,000,000 予定
2	熊本県	熊本市城南	体育館	熊本地震被害による事務室・2F 体育館等耐震改修、照明 LED 化（蛍光灯）等	30,000,000 予定
1 センター・2 施設					60,000,000 予定

また、2020年中に発生した台風10号等で被災した2海洋センター3施設に対し、2,600,000円を助成決定し、復旧を図った。（一部2021年度に事業延長）

◆災害復旧修繕交付一覧（年度内に募集）

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額(円)
1	佐賀県	鹿島市	プール	上屋シート5枚取替	1,500,000 予定
2	長崎県	南島原市 加津佐	プール	上屋シート3枚取替	800,000 予定
3			艇庫	シャッター改修	300,000
2センター・3施設					2,600,000 予定

(2) 舟艇器材の配備

①舟艇器材追加・再配備

申請のあった24海洋センター・12海洋クラブの活動状況等審査を行った結果、24海洋センター・6海洋クラブに対し、BIG SUPやシースルーカヤック、障がい者や未経験者でも乗船が容易なユニバーサルデザインのハンザディンギーなどの海洋性レクリエーション器材をはじめ、活動に必要な舟艇等器材を配備した。

対 象 : 24海洋センター・6海洋クラブ

配備金額 : 13,661,362円

②新規海洋クラブ登録及び舟艇器材配備

新規海洋クラブとして登録を行った6海洋クラブに対して、シーカヤックやSUP、ライフジャケットなど、活動に係る器材を配備した。

新規クラブ : B&G 湘南バディ冒険団海洋クラブ (神奈川県)

B&G 海の森・山の森海洋クラブ (神奈川県)

B&G 埼玉海洋クラブ (埼玉県)

B&G 坂井市わんぱく海洋クラブ (福井県)

B&G おおの海洋クラブ (福井県)

B&G 大崎わんぱく海洋クラブ (鹿児島県)

配備金額 : 8,270,681円

(3) 修繕確認等

①決定書授与式

ボートレースの収益金の有効活用について、広く住民に周知することを目的に、「決定書授与式」を開催し、自治体執行部へ完成後の更なる利用促進と事業展開を要請した。

時 期：通年

対 象：24 自治体（修繕助成金額約 1,000 万円以上）

②リニューアルオープン式典

完成後に開催される「リニューアルオープン式典」に出席し、式典に出席した自治体執行部や議会関係者、地域住民に今後の利用促進を PR するとともに、修繕工事の完了確認を行った。

時 期：通年

対 象：4 センター

③海洋センター・海洋クラブの現状調査

海洋センター・クラブの現状調査を実施し、運営状況や問題点などの確認を行った。

時 期：通年

対 象：36 海洋センター・11 海洋クラブ

内 容：市町村長や教育長等との面談、海洋センターの管理・運営状況・問題点等の確認

④海洋センター・海洋クラブの評価

海洋センター・クラブの更なる利用促進を図るため、2019 年度の活動状況や運営状況等に基づく評価を行い公表した。

◆評価別 海洋センター数

特 A	A	B	C	D	E
304	92	57	7	1	4

◆評価別 海洋クラブ数

特 A	A	B	C	D	E
49	45	82	24	26	41

⑤優良海洋センターの表彰

海洋センター評価に基づき、A評価以上の優良海洋センターを「第 13 回 B&G 全国サミット」において表彰することを予定していたが、サミットの中止に伴い、表彰状の送付による表彰とした。

対 象：特 A 評価 304、A 評価 92 計 396 センター

3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進

防災や子育て支援、体験格差の解消など、既存のスポーツに留まらない多様性のある事業を推進し、その取組などを広く情報発信することにより、海洋センター・クラブの活性化を図った。

- (1) ネットワークを活用した地域情報の共有と発信 ※日本財団助成事業
 海洋センター・クラブの活動情報等を、ブロック毎に開設した SNS や B&G 財団公式 HP で海洋センター・クラブ担当者が自ら発信すると共に、ニュース性の高い話題は財団が記事化して発信し、地域情報の共有と発信を行った。

①公式サイトでの地域情報発信 30.2 万 PV

No.	コンテンツ	PV
1	行こうよ 海洋センターへ！	33,633
2	イベント・教室情報、リモート大会等	245,677
3	メラキラ B&G 男子、ドキドキ B&G 女子	23,401
	計	302,711

②SNS を活用した地域情報発信 54.6 万 PV

No.	コンテンツ	リーチ数
1	Facebook 「まちレポ」	177,246
2	Twitter 「イベント・教室情報」等	197,540
3	Instagram 「アンドリーくん 日本一周ひとり旅～ぬい撮りの旅～」	55,350
4	Youtube 「B&G チャンネル」	116,000 ※視聴回数
	計	546,136

(2) 体験格差解消を目指す水辺の自然体験の推進

①障害児や児童養護施設の子供を対象とした水辺の自然体験の実施

※日本財団助成事業

障害児や児童養護施設の子供など、身体的・家庭的な理由等により体験格差が生じている子供を対象に、水辺の自然体験機会を提供するため、海洋センター・クラブ 4 ヶ所で水辺の自然体験会を実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海洋センター・クラブ 31 ヶ所に対し、次年度実施に向けた感染症予防備品等の支援を行った。

時 期：通年
場 所：海洋センター・クラブ 4 ヲ所
参加者：209 名
内 容：水辺の自然体験会等の実施

②公募団体による水辺の自然体験の実施 ※休眠預金等交付金事業
休眠預金制度を活用し、障害児等の体験格差解消を推進するため、全国 10 ヲ所の実行団体が実施する水辺の自然体験活動を支援した。また「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」を活用し、感染症予防器材等の追加購入支援を行った。

時 期：通年
場 所：実行団体 10 ヲ所
参加者：3,930 名
内 容：水辺の自然体験会等の実施、実施経費・器材購入支援等

③児童養護施設の子供を対象とした水辺の自然体験の実施 ※ノエビアグリーン財団助成事業
児童養護施設等の子供を対象に水辺の自然体験会を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、感染症予防備品等の追加購入支援を行った。

時 期：2020 年 8 月～12 月
場 所：海洋センター・クラブ 14 ヲ所
参加者：514 名
内 容：水辺の自然体験会実施、実施経費支援およびライフジャケット配備等

(3) 学習と体験活動による子育て支援 ※日本財団助成事業
長期休暇中の子育て支援の一環として、教員や学生等の地域人材を活用し、宿題などの学習と体験活動が両立する子供の居場所「BG塾」を実施した。また、コロナ禍においても実施可能な新たなプログラムとして「パネル型教材」の製作・配布を行った。

時 期：夏休み・冬休み・春休みの 5 日間
場 所：海洋センター・クラブ 30 ヲ所
参加者：小学生等 2,105 名
サポーター数：301 名
内 容：学習と体験活動が両立する「BG塾」の開催、開催経費支援および優良海洋センター表彰 (6 ヲ所)

(4) 「障害者と健常者のヨット大会」の実施

障害者と健常者がともに練習に励み競い合う環境をつくることで、相互理解の促進を図ることを目的に、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるヨット大会やヨット教室を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会を中止し、県内の方に限定した教室を実施した。

時 期：2020年7月23日（木）～25日（土）

場 所：北浜ヨットハーバー（大分県別府市）

参加者：47名

(5) 「子ども第三の居場所」運営支援

※日本財団助成事業

様々な困難な状況にある子供たちの放課後の居場所づくりとして「子ども第三の居場所」を展開するため、行政・地域住民等の連携体制の構築、学習・生活支援プログラムや体験活動の実施など、運営に係る支援を行った。

①拠点運営費助成

2019年度より「第三の居場所」の運営を行っている8自治体9カ所に加え、2020年度より新たに運営を開始した6自治体6カ所に対し、学習・生活支援費、体験活動費、スタッフ人件費等の運営助成金を交付・決定した。

	拠点	開設時期	運営費助成決定額
1	埼玉県嵐山町	2019年4月	20,000,000円
2	新潟県胎内市	2019年4月	20,000,000円
3	大分県杵築市	2019年4月	20,000,000円
4	茨城県笠間市	2019年4月	20,000,000円
5	島根県雲南市	2019年4月	20,000,000円
6	長野県大町市	2019年6月	16,700,000円
7	北海道東神楽町 (中央)	2019年6月	16,700,000円
8	石川県穴水町	2019年7月	15,000,000円
9	北海道東神楽町 (東聖・ひじり野)	2019年8月	13,400,000円
10	北海道積丹町	2020年4月	20,000,000円
11	新潟県燕市	2020年4月	20,000,000円

12	岡山県備前市	2020年4月	20,000,000円
13	岡山県美作市	2020年4月	20,000,000円
14	岡山県奈義町	2020年10月	10,000,000円
15	京都府南丹市	2020年10月	10,000,000円
合 計			261,800,000円

②研修会の開催

・オープン前研修会

時 期：2020年9月23日（水）

場 所：新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施

参加者：南丹・奈義拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等 8名

内 容：事業説明、ワークショップ、事例発表（雲南拠点・大町拠点・杵築拠点）

・フォローアップ研修会

時 期：2020年12月10日（木）～11日（金）

場 所：茨城県笠間市

参加者：運営開始済拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等 33名
（現地参加者：14名 リモート参加者：19名）

内 容：拠点進捗報告、笠間拠点視察、外部講師による講義、ディスカッション等

③協定書調印式・内覧会の実施

	拠点	開設日	実施日	場所
1	北海道積丹町	4月1日	7月28日	積丹拠点
2	岡山県備前市	4月1日	8月31日	備前拠点
3	岡山県奈義町	10月1日	10月15日	奈義拠点
4	京都府南丹市	10月1日	10月28日	南丹拠点

※新潟県燕市、岡山県美作市は新型コロナウイルス感染症の影響により延期

④オンラインイベントの開催

拠点間で交流できるオンラインイベントを開催し、拠点利用児童やスタッフ同士が交流を行った。

時 期：2020年12月～2021年3月（計4回開催）

参加者：228名（11拠点）

内 容：拠点对抗オンラインクイズ、運動講座、工作教室等

⑤利用児童を対象とした宿泊型海洋体験の実施

※日本財団支援金事業

「子ども第三の居場所」を利用する児童を対象に、沖縄県にて、海洋体験や文化体験等を提供する事業であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により次年度に実施を延期することとした。

(6) 海洋センターのバリアフリー化と器材配備

※日本財団助成事業

海洋センター施設のバリアフリー化につながるスロープの設置や移動式ベンチ、ボッチャや卓球バレーなどのパラスポーツ器材の配備を支援することで、海洋センターをさらに使いやすい公共施設にするとともに、新たな利用者を発掘し、海洋センターの活性化を推進した。

時 期：2020年6月～2021年3月

場 所：岩手県奥州市前沢（体育館）、三重県伊賀市大山田（体育館）
山口県周防大島町（艇庫）、香川県高松市国分寺（体育館）、
高知県四万十町窪川（体育館）

参加者：1,534名

(7) B&G 巡回写真展「スポーツのチカラ」の実施

※東京2020応援プログラム

海洋センター所在自治体において、B&Gにゆかりのあるアスリート等の写真展と同時開催事業（パラリンピックやパラスポーツ、障害者への理解促進につながるもの）を実施することで、地域において、オリンピックやパラリンピックへの機運醸成を図るとともに、インクルーシブな取組を促進した。

時 期：通年

場 所：21 海洋センター

来場者数：23,747名

(8) 東京の運河でカヌーツーリングとクリーン活動

※日本財団助成事業

※東京2020応援プログラム

2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、都内運河でカヌーツーリングをしながら、クリーン活動を行い、環境美化を通じてオリンピック・パラリンピックの機運を高めるとともに、都内での自然体験機会を提供した。当初は5月末に400艇での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下であったため、実施時期と場所を改め、下記の通り行った。

時 期 : 2020年11月26日(木)
場 所 : 若洲ヨット訓練所から出艇
参加人数 : 46名
参加艇数 : カヌー45艇

(9) 次世代型海洋センター艇庫の先進的活用

※日本財団助成事業

各種団体と連携し、多様な活動の機会を創出することで、海洋性レクリエーションに止まらない新たな艇庫活動の活性化を図った。

①宮城県加美町

新型コロナウイルス感染症の影響により、艇庫改修後の大規模な周知イベントは出来なかったが、パラカヌーの拠点化を目指した体験会や障害者の受け入れに対応した指導者を育成するとともに、地元の中学生を対象とした共生社会実現に向けた教室を開催した。

(講習会)

時 期 : 2020年10月3日(土)
参加者数 : 34名

(体験会)

時 期 : 2020年10月4日(日)
参加者数 : 60名(障害者18名、健常者10名、講師等32名)

(インクルーシブ教室)

時 期 : 2020年11月7日(土)、12月12日(土)、2021年3月6日(土)
参加者数 : 55名(1回目23名、2回目24名、3回目8名)

②徳島県阿南市

新型コロナウイルス感染症の影響により、春・夏・秋に計画した住民対象の大規模イベントは実施できなかったが、各種団体と連携し、海だけでなく周辺環境を活用したイベントや艇庫を活用した海の環境学習教室やドローン教室、囲碁教室などを年間通して定期的で開催するとともに、SUPによる定住促進を目指す街としてSUP事業を展開し、利用者人数は全国2位の15,392名となった。

(ファミリーSUPデイキャンプ)

時 期 : 2021年3月14日(日)
参加者数 : 55名

③長崎県時津町

「海洋教育の拠点化」を目指し、町民対象の艇庫改修周知イベントや、教員対象の海洋性レクリエーション研修会を実施した。

(教員対象研修会)

時 期：2020年8月17日(月)

参加者数：33名(教員19名 講師・スタッフ14名)

(周知イベント：マリンデーフェスタin時津)

時 期：2020年9月12日(土)

参加者数：283名(町民228名 スタッフ55名)

4. 誰もが海に親しめる事業の推進

※日本財団助成事業

海離れが進み、海への興味・関心が薄れている昨今、「海の日」制定の意義をはじめ、社会課題である海洋ごみ問題等について、国民の理解と関心を深めるため、海洋性レクリエーション体験や水辺の安全学習・清掃活動等、誰もが海に親しめる機会の推進を図った。

(1) 学校・地域と連携した「海の日」と「海の安全」を学ぶ教室の開催

海洋センター・クラブの協力を得て、新型コロナウイルス感染症等の状況に留意しながら、「水辺の安全教室」を全国で実施し、海の日と海の安全について学ぶ機会を提供した。

また学校の教員に対し、海の日と海の安全に関する理解と教室運営について学ぶ「教員研修」を提供した。

時 期：通年

場 所：全国の小中学校プール、海洋センター・クラブ等

実施校数：(児童生徒向け教室等) 全国の小中学校等：776校

(教員研修への参加) 全国の小中学校等：107校

参 加 者：109,612名(小中学生、教員、地域住民など)

(2) 「海の日」に関するイベントの開催

「海の日」と「海の安全」への理解を深める機会をより多くの人に提供するため、「海に入らなくても水着にならなくても海を楽しむ」のコンセプトはそのままに、三密を避けるプログラムや参加定員数を減らすなどの新型コロナウイルス感染防止対策を行った「ミニ砂 ASOBeach」と、自宅にいながら WEB で参加できる「オンライン砂 ASOBeach」を開催し、全国から 1,646 名が参加した。

①ミニ砂 ASOBeach

	開催地	日程	会場	参加者数
1	北海道大空町（北海道）	9月12日（土）	女満別湖畔	132名
2	富山海洋クラブ（富山県）	9月20日（日）	富岩運河環水公園	583名
3	錦江湾海洋クラブ（鹿児島県）	10月3日（土）	重富海水浴場	260名
4	池田海洋クラブ・オリーブアイランド海洋クラブ（香川県）	10月4日（日）	室生海岸	232名
5	かわげ海洋クラブ（三重県）	10月24日（土）	マリーナ河芸ビーチ	120名
6	YASU海洋クラブ（高知県）	3月14日（日）	YASU海の駅	22名
7	アマニコ海洋クラブ（鹿児島県）	3月28日（日）	朝仁海岸	荒天中止
	合 計			1,349名

②オンライン砂 ASOBeach

日 時：10月18日（日）

場 所：B&G財団 ほかに全国各地

参加者：297名

内 容：

- ・オンラインビーチ運動
ビーチヨガ、フレスコボール
- ・クラフト体験
オリジナルビーチサンダルづくり、オリジナルライフジャケットづくり
- ・海に関するクイズ大会
海のものしり王

(3) 海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動

海洋性レクリエーションと密接に関わる水辺の環境保全、特に海洋ごみに関する知識・意識の向上を図ることを目的に、水辺等での清掃活動を実施した。

時 期：通年

※9月12日～9月19日は秋の海ごみゼロウィーク（強化期間）として実施

場 所：全国の海洋センター・クラブ所在市町村

参加者：129センター・22クラブ 7,103名（通年）

44センター・10クラブ 1,227名（秋の海ごみゼロウィーク）

5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用

海洋センター・クラブにおいて、青少年の健全育成や地域住民の健康増進を担う「センター・インストラクター」指導員の養成や「学生ボランティア養成」事業等を通じて、B&G 指導員を養成するとともに、各種会議の開催や全国・地域指導者会の活動促進を図り、地域の活性化に貢献した。

(1) 海洋性レクリエーション指導員の養成

海洋性レクリエーションおよび水泳に係わる総合的な知識・技能・指導法ならびに安全管理を中心とした研修を実施し、財団概要、海洋性レクリエーションと水泳の理論・実技、安全管理、施設の管理運営、財団が推進する事業（水辺の安全教室）等を習得した B&G 指導員を養成した。

- ①センター・インストラクター養成研修 ※日本財団助成事業
時 期：2020年9月5日（土）～9月29日（火）25日間 実技研修
2020年10月28日（水）～11月30日（月） オンライン講義
場 所：沖縄県本部町 B&G 海洋センター（マリンプiazza オキナワ）
参加人数：15名

②大学等と連携した人材育成

武蔵丘短期大学（埼玉県）、大正大学（東京都）と連携し、学生に対して、「水辺の安全教室」プログラムや海洋性レクリエーション研修を計画していたが、コロナ禍によるリモート授業の実施や課外授業の自粛による大学からの要望を受け、次年度に実施を延期することとした。

③指導員研修会

海洋性レクリエーションに関するプログラムほか、安全管理や社会の変化に即した指導法、優良海洋センターの活動事例等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図るとともに指導員間のネットワークの強化を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発出により中止することとした。

- 時 期：2021年1月29日（金）
場 所：日本財団ビル（東京都港区）
参加者：B&G 指導員、海洋センター・クラブ担当者等

(2) 指導者会の活動促進

※日本財団助成事業

正副会長会議およびブロック責任者会議を実施し、全国指導者会の3年間の活動目標を達成するための方策を協議・決定し、今後の展開に向けた体制作りを整えた。

①ブロック別指導員研修会への支援

「自然体験活動を推進するためのノウハウを学ぶ」をテーマに、指導員の資質向上を図るため、全国10ブロックにおいて、ブロック別指導員研修会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、1ブロックの実施となった。

時 期：2020年9月18日（金）・9月24日（木）

実施回数：北海道ブロック 市町村等 2回

②正副会長会議、ブロック責任者会議の開催

全国指導者会の「正副会長会議」を2回、「ブロック責任者会議」を1回開催した。会議では、2019年度からの3年間の活動方針・活動目標に基づき、ブロック総会での内容伝達や目標達成に向けた現状の把握、次年度の活動計画・予算について意見交換等を行い、具体的な計画を策定した。

③指導者会の活性化支援

今年度から新たにスタンドアップパドルボード（SUP）の器材貸出を行い、24海洋センター114艇の貸出利用があり、海洋性レクリエーションの実施推進を図った。

そのうち、海洋センター艇庫や海洋クラブがない海洋センターからの貸し出しが6割を占め、プールを活用した海洋性レクリエーションの実施に貢献した。

（3）地域指導者会と連携した学生ボランティアの養成

※日本財団助成事業

地域指導者会と連携し、学生に対して海洋性レクリエーション体験や安全管理講習の研修を行い、学生ボランティアを養成した。本事業によって、学生が海洋センターの事業や教室などへ継続的に参加できるようになるなど、事業の協力者が増え、より安全な事業実施に貢献した。

時 期：通年

場 所：22カ所（海洋センター21カ所、海洋クラブ1カ所）

参加者：大学生、高校生、高専生、専門学校生・高校生 117名

および一般 44名 合計 161名

内 容：海洋性レクリエーション実技、安全管理、指導法、器材管理 等

6. 全国会議の開催

※日本財団助成事業

海洋センター所在市町村の教育長をはじめ、海洋センター・クラブ関係者を対象に、財団事業の周知、関係者との意見交換等を目的とした各種会議を開催し、人的ネットワークの強化を図った。

(1) 第13回「B&G全国サミット」

「コロナ禍を乗り越える ～さらなる連携に向けて～」をテーマに開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発出により、中止することとした。

(2) 第17回 B&G 全国教育長会議

「ポスト・コロナ期の教育を考える～オンライン時代に良質な実体験を～」をテーマに、専門家による基調講演や先進的な取り組みを実践している学校教諭による事例発表をはじめ、出席の教育長による事例発表、文部科学省発表を実施した。

時 期：2020年11月5日（木）

場 所：笹川記念会館4階大会議室

対 象：海洋センター所在自治体 教育長

出席者：111名

主な内容：

- ・基調講演：「ポスト・コロナ期の教育を考える」
千葉大学 教育学部 教授 藤川 大祐 氏
- ・先進事例発表：「GIGAスクール構想の実施で変わる学びの姿
～一人1台タブレットの導入から在宅オンライン学習まで～」
渋谷区立西原小学校 指導教諭 後藤 勝洋 氏
- ・教育長事例発表：「コロナ禍だからこそ、最高の体験を
～教育委員会のコロナ対策と B&G 事業の推進～」
大分県中津市 教育長 栗田 英代 氏
- ・文部科学省発表：「GIGA スクール構想の実現について」
文部科学省 情報教育・外国語教育課
課長 今井 裕一 氏
- ・B&G 財団事業説明

◆全国教育長会議出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
海洋センター関係	教育長	85名
	代理	2名
	随行	20名
報 道	報道関係	4名
合 計		111名

(3) ブロック連絡協議会の活性化

①ブロック連絡協議会総会

ブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団役員およびブロック担当者が出席し、財団事業の説明等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下であったため、全ブロックとも書面決議とした。

②ブロック交流会議

ブロック連絡協議会総会が全ブロックで書面決議となり、対面で情報交換をする機会が無くなったため、開催時期を秋に変更し、改めて各ブロック連絡協議会と会議開催に向けて調整を行ったが、越県移動が難しいという理由から、北海道ブロックのみで開催した。

時 期：2020年9月25日（金）

場 所：北竜町公民館

対 象：北海道ブロック内の指導員、担当者

出席者：36名

主な内容：2020年度下期事業・2021年度事業についての説明、
2019年度利用者人数ランキング表彰 等

③ブロック幹事会議

春のブロック総会、秋の交流会議とも対面での会議が実施できなかったブロックの活性化に向けて、オンライン上でブロック幹事等を対象とした会議を開催した。

時 期：2020年11月17日（火）

場 所：オンライン

参加者：ブロック連絡協議会幹事10名、全国指導者会ブロック責任者10名

主な内容：

- ・2020年度 各ブロック連絡協議会の事業実施状況
- ・2021年度事業実施に向けた新型コロナウイルス感染予防対策
- ・ブロック連絡協議会の課題
- ・財団事業の紹介 等

7. B&Gプランの推進に関わる調査研究等の活動

B&Gプランのさらなる推進を図るため、事業の改善や質的向上を目的とした各種検証を行うとともに、新規事業創出に向けた調査研究等を行った。

(1) 事業成果の検証

2019年度の財団事業実績、海洋センター・クラブの運営・活動状況分析などを記載した「活動実績報告書」を発行し、海洋センター・クラブほか関係団体等に配付し、財団事業に対する理解促進を図った。

(2) 地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関する調査研究

※日本財団助成事業

財団職員による事業提案会等を通じて、地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用を拡大するため、「地域人材・食材を活用した青少年の健全育成」及び「海洋センターオンライン化促進」に係る調査研究事業について体験会等をパイロット実施した。また、「空き家・空き公共施設を活用したサテライト型体験拠点の創設と活性化に係る事業」についてアンケート調査を行った。プログラム内容の検証を行うとともに、参加者や自治体へのヒアリングなどを通じて、今後、財団事業としての推進や関連事業の創出などを行うこととした。

(3) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査

「青少年の健全育成推進計画」の効果的な推進を図るため、各事業の検証を行った。

8. 広報活動

(1) パブリシティ活動

財団や海洋センター・クラブの活動を広く社会へ周知するため、マスメディアによる報道を通じた広報活動を行った。

【マスメディアの掲載・放映数】

新聞	雑誌	テレビ	ウェブ
109紙 443回	5誌 12回	17局 19回	57媒体 145回

(2) インターネットによる情報発信

財団公式HPとSNSを活用し、財団の活動や全国のB&G海洋センター・クラブの情報を発信した。

【情報発信数】

媒体名	アクセス数
財団公式HP	2,132,673件
Facebook	203,817件
Twitter	197,540件
Instagram	55,350件

(3) 海洋センター・海洋クラブの広報活動支援

指導者、自治体と連携を図り、海洋センター・クラブの広報活動を支援助言すると共に、壁新聞「アンドリーニュース」の発行、B&G オリジナルグッズの作製を行った。

(4) コンクールの実施

海洋センター・クラブの魅力を自ら発信するコンクールとして「B&G PR 大賞」を実施。

海洋センター・クラブの活動を SNS に投稿し紹介する「まちレポの部」、館内装飾やサービスで利用者に心地よい空間を提供する「おもてなしの部」、お題に合わせた失敗体験を詠む「やらかし川柳の部」の3部門を募集し、審査委員会において各部門の最優秀賞・優秀賞計26点を選定した。

「2020 B&G PR 大賞」審査委員会

日 時：2021年3月12日（金）

場 所：財団会議室

応募総数：6,532点

(内訳) まちレポの部	702点
おもてなしの部	154点
やらかし川柳の部	5,676点

9. 災害等支援事業

「令和元年 台風15号・19号」で被害を受けた千葉県内の子供たちやその家族を応援することを目的に「がんばろう千葉！ B&G 海遊び・マリンスポーツ体験」を開催。全国の海洋センターから寄せられた支援金を活用して、SUP やバナナボートなどのマリンスポーツ体験会を実施した。

時 期：2020年8月8日（土）

場 所：千葉県鋸南町 鱈ヶ浦海岸

参加者：90名

10. 寄付金等事業

財団や海洋センターの活動を継続的に実施するため、広く社会一般へ寄付金の募集を行った。集まった寄付金は、児童養護施設の子供たちやひとり親家庭を対象とした海洋性レクリエーション体験会などに活用した。

【収益事業】

1. 土地賃貸事業

旧東京海洋センターの跡地（江東区深川）を「ホームセンターコーナン」に賃貸し安定的な賃貸料収入を得た。この収入は当財団の公益目的事業及び管理運営業務等の経費支出に活用した。

別表 1

役員名簿

(2021年3月31日現在)

役職	氏名	現職
会長	前田 康吉	北海道 滝川市長
理事長	菅原 悟志	
常務理事	古山 透	
理事	青山 節児	岐阜県 中津川市長
〃	佐野 慎輔	産経新聞社 客員論説委員
〃	中逸 博光	熊本県 長洲町長
〃	中江 有里	女優 脚本家 作家
〃	中村 真衣	シドニーオリンピック競泳 銀メダリスト
監事	大藪 卓也	大藪公認会計士事務所代表
〃	西本 克己	株式会社東京ビー・エム・シー 取締役会長

別表 2

評 議 員 名 簿

(2021年3月31日現在)

氏 名	現 職
議 長 小 高 幹 雄	BOAT RACE振興会 会長
岸 ュキ	女優・画家
工 藤 祐 直	B&G全国指導者会 会長 青森県 南部町長
小 峯 力	中央大学 教授
谷 川 真 理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
波多野 茂 丸	全国モーターボート競走施行者協議会 会長 福岡県 芦屋町長

別表 3

専 門 委 員 名 簿
(海洋センター施設整備委員)

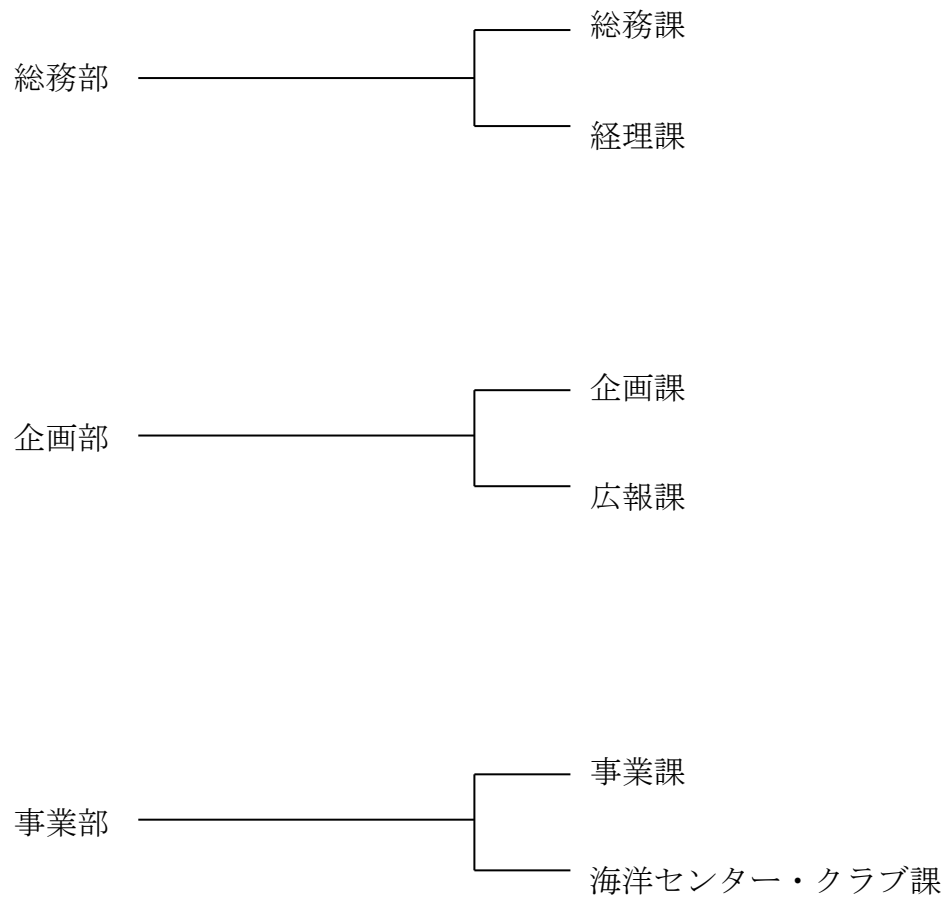
(2021年3月31日現在)

	氏 名	現 職
委員長	田久保 雅 己	株式会社舵社 顧問
副委員長	小 林 元 一	小林建築研究所 一級建築士事務所 代表
委 員	岩 崎 恭 子	バルセロナオリンピック 競泳 金メダリスト
〃	遠 藤 聡	株式会社日本海事新聞社 専務取締役
〃	田 村 祐 司	国立大学法人東京海洋大学大学院 准教授
〃	吉 田 義 朗	一般社団法人日本障害者カヌー協会 理事

別表 4

事務局 機 構 図

2021年3月31日現在



2020 年度事業報告 附属明細書

2020 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021 年 5 月

公益財団法人

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

前記のとおり相違ありません。

2021年5月31日

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会 長 前 田 康 吉

2020年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 大 藪 卓 也

監 事 西 本 克 己